

塾生の人生における貢献を目指して

- 開倫塾で大切にしたいものとは -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1) 明年 10 月に創塾 30 周年を迎える開倫塾は、お陰様で、この度、栃木県北部に NASU ブロックを開設、矢板校、大田原校、黒磯校の 3 校を同時に開校するに至りました。
- (2) これは、偏(ひとえ)に、地域の皆様の御理解・御協力、開倫塾に貴重な不動産をお貸し下さった家主様の御理解・御協力、そして、今日ここにお集まりの NASU ブロックを担当する社員の皆様ならびに NASU ブロックを支える全社員の皆様の御理解・御協力の賜(たまもの)と、開倫塾全体の経営責任者として心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

2. 開倫塾で大切にしたいものとは - 「塾生の人生における成功に貢献」を目指して -

- (1) 開倫塾は、塾生の「学校成績の向上」と「希望校合格」という業務内容、学習塾として当然持ち、この 2 つは必ず成し遂げなければなりません。結果を出さなければ、自らの仕事をしたことにならないし、誰からも評価されず、校舎は閉鎖、開倫塾は倒産の運命が必ず生じます。塾生、保護者、地域社会が学習塾に最も期待する、塾生の「学校成績の向上」と「希望校合格」を、自らの生存を懸けてどんなことをしても成し遂げなければなりません。
- (2) ただし、開倫塾は、教育の成果として単に学校の成績を向上させること、希望校に合格させることだけを目指すのではなく、非常に困難であるかも知れませんが、「塾生の人生における成功」と「持続可能な社会の形成」に貢献することも、これに加えたく希望します。その理由は、単に「学校成績を向上させればよい」、単に「希望校に合格させればよい」という指導に終始しますと、「ここが出題されるからここだけ覚えておけばよい」「この問題が出たらこのように答えればよい」という解答のテクニック、受験のテクニックが教育の大半を占めてしまい勝ちになるからであります。勿論、試験、とりわけ入学試験の直前にはそのような技術面の指導も大切ではあり、その重要性を軽視するものではありませんが、非受験学年や、受験学年でも受験までに期間がある場合には、開倫塾の「学習の 3 段階理論」に基づいた段階を踏まえた丁寧な学習、指導が求められると確信します。

3. 「塾生の人生における成功に貢献」を目指す「学習の3段階理論」とは

- (1) 折角、「学校成績の向上」「希望校合格」を目指して開倫塾で一所懸命に(一つの所で命を懸けるくらい熱心に)勉強するのであれば、「成績さえ上がればよい」「合格さえすればよい」という態度で、塾生は勉強するのではなく、また、先生は指導するのではなく、上級学校に進学したときに役立つように、更には社会に出てから死ぬまで一生涯役に立つようにすべきだと考えます。

- (2) そのためには、自学自習や学校・開倫塾の授業中に「うんなるほど」と「十分納得する、腑に落ちる」、つまり「理解」することが第一。次に、「うんなるほど」と十分「理解」したことを「何も見ないでスラスラ言えるまで音読練習すること」、「何も見ないで楷書で正確に書けるまで書き取り練習すること」、「問題を見た瞬間に正解が出るまで計算・問題練習をすること」で、学力を「定着」させることが第二。十分「理解」したことを、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の「三大練習」で「練習、練習、また練習」を繰り返すことにより、学力を「定着」させた後にはじめて、過去に出題された問題(過去問)と予想問題を「問題練習」して「応用力」をつけ、合格点を取ることに、社会に出てそれらを「応用」するのが第三であります。
- (3) この「学習の3段階理論」に基づいて正確に身に付けた「学力」は、たとえ「学校成績の向上」「希望校合格」の目的で成し遂げた学習であっても、上級学校に進学した後も十分に役立つばかりか、社会に出てからも死ぬまで一生涯にわたって役立つものであり、塾生の人生の成功に貢献する学力であると確信いたします。
- (4) このような形で、たとえ「学校成績の向上」や「希望校合格」のための学習であっても、「理解」「定着」「応用」と「学習の3段階理論」をしっかり踏まえた上で身に付けた学力を有する人が多ければ多いほど、持続可能な社会が形成される可能性が大きいと確信いたします。
- (5) 「学習の3段階理論」を踏まえて着実に学力を身に付けることは、「学校成績の向上」と「希望校合格」という学習塾への期待に応えるだけでなく、「塾生の人生の成功に貢献すること」、「持続可能な社会の形成に貢献すること」にも直結するものであります。

4. これからの社会で求められる、3つの「鍵となる大切な基本的能力(キー・コンピテンシー)」とは

- (1) 自律的に活動できる能力(高い志を持ち、志を持続させ、自分自身を律しながら活動する能力) ...開倫塾の教育目標「高い倫理」に該当。
- (2) 異なった集団で交流できる能力(多様な価値観、文化的背景、言語習慣を持った人々と共に活動できる能力)...「高い国際理解」に該当。
- (3) 知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力(学校や社会で身に付けた知識等を十分活用できる能力)...「高い学力」に該当。
- (4) この3つの「キー・コンピテンシー」を実現するために欠かせないもの
“Learning To Learn”(学び方を学ぶ、「学習の学習」)のスキル...開倫塾の教育目標「自己学習能力の育成」に該当。
「読書量」(読書によって培われる熟慮する力、自分をふり返る力が、学力を決める)...「本を読んで考える」、「新聞を読んで考える」
- (5) OECDのPISA(15歳時の国際学力調査)の基底となる学力観である「キー・コンピテンシー」の3つの内容と、それを支える2つの要素は、開倫塾の教育目標と合致していると考えられる。

5. おわりに

(1) 開倫塾はチームプレイ

チームプレイとは、自分のポジションは誰にも頼らず自分で守り抜く。

議論は自由、決めるのは責任者が一人で。

「耳に痛いことを言う人は尊い」(自由に発言を)

責任者は丁寧な説明を(説明責任 accountability)

(2)健康第一(心の健康、身体健康)

*夜11時以降の勤務は「絶対禁止」

(3)ルールの中でのプレイを

セクシズム }
レイシズム } のないように
エイジズム }
法令違反 }

(4)研修の目的は empowerment(エンパワーメント)

能力強化

権限委譲

(5)「一生勉強、一生青春」(相田みつを先生)

- いつまでも若々しく生きる -

以上

これからもよろしくお願ひ申し上げます。